

小出病院での地域研修を終えて

魚沼基幹病院研修医 平高明音

小出病院の5週間の研修では、さまざまな医療現場に足を運び、多職種連携を肌で感じることができました。まず、新型コロナウイルス感染症流行期にこのような素晴らしい研修の機会を与えてくださったすべての方に御礼申し上げます。

急性期病院を退院した方を中心に、大変多くの患者さんを主治医として担当する機会をいただき、初期臨床研修のほとんどの時間を急性期病院で過ごす私にとってかけがえのない経験となりました。これまで主治医の経験がなかった私が主治医として診療を行うためには、疾患の知識はもちろん、担当する患者さんの生活を支えるシステムを理解することが必要不可欠でした。訪問看護や診療所の見学、介護認定審査会への参加、ケアマネジャー研修、薬局研修などさまざまな場所での研修を通じて、5週間で地域包括ケアシステムへの理解がだいぶ深まったように思います。医師にとって必須の知識であるにもかかわらず、こうした経験は現在の初期臨床研修で不足しがちであり、本研修は大変貴重な機会であったと感じています。魚沼基幹病院に戻ってからも、疾患のことだけでなく、患者さんの生活背景や退院後の生活、医療機関との連携について考えるようになり、自らの成長を実感することができました。

魚沼地域は高齢化率が非常に高い地域で、担当した患者さんもほとんどが高齢者の方でした。これは遅かれ早かれ今後日本中のあらゆる医療現場で起きる現象です。患者さんの日常生活について思いを馳せ、多職種の方々と連携して必要なサポートを導入していくのも医療者の責務となることは疑いようがありません。本研修での経験を活かし、患者さんを人として診られる医師、多職種連携のできる医師になるよう、引き続き精進します。先生方・職員の皆様には今後ともご指導を賜りたくお願い申し上げます。5週間ありがとうございました。